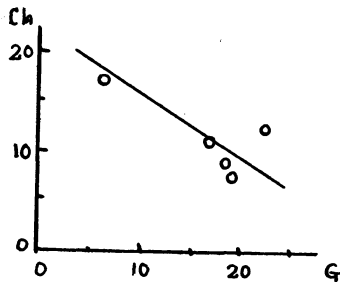


ならびに竹林調査¹¹⁾の資料によって述べる。第16図はChとGとの関係である。この関係は前に述べたように気候要素と一義的には結びつかない。むしろ、こうした関係は Micro habitat として考察する方がよいであろう。沼田もいうように、竹林においては、Chが多いことは、竹の生育は相対的によいといわれる。これは結局 Chの生活型からもわかるように竹と生活空間を棲分けることができるが、Gは竹と競争することとなる。

xi Th と G の関係

第17図は Th と G の関係である。これは第16図での関係と同じような結果であるが、前に述べたように Ch と

第 17 図



Th では指標内容は全く異なる。しかしここでは Micro habitat として考える場合、Th は Ch と同じく竹に対しては、生活空間のうばいあいをするのがない。こうした意味から、Th は Ch と全く同じような関係を示すものと思う。この問題は、Micro habitat の問題と共に一層研究すべき問題であろう。

xii む す び

農業気候の基礎研究の立場から、気候表現の問題（植物にとっての気候環境）を植物の生活型を中心として論じた。ソ連ではこの種の研究が自然改造と共に大いに關心がもたれている。たとえば、リンゴの栽培限界を、より寒い北方にひろげるために、リンゴの生活型（挺空植物）を地表低くはわせて、地表植物のように改良するこ

とによって（これは結局寒帯に適応している植物の生活型 Ch に改良しようとする試みである）普通のリンゴの育たない北の寒いところで栽培に成功している。

わが国でもこうした研究が進めば、農業気候の果す役割は、きわめて大きいといわねばならない。

終りに、この研究について、御指導いただいた、千葉大学、沼田博士に感謝すると共に常日頃御鞭達をいただいた中原博士に謝意を表したい。

参 考 文 献

- 1) F. E. Clements, 1920 : Plant indicators. p.3.
- 2) 沼田真 : 植物からみた気候, 気候学の動向, p198, (1952).
- 3) F. E. Clements and Goldsmith, 1924 : Phytometer method in Ecology
- 4) 中原孫吉, 三寺光雄, 1952 : 佐渡の稲作と気候について, 第1報, 一日本の農業気候の研究—中気産調, 第6巻第1号.
- 5) 沼田真 : 植物気候の問題点, 気候談話会, 19. 55年12月
- 6) Raunkiaer, C. 1934 : Life Forms of Plants and Statistical Plant Geography.
- 7) Gimingham, C. H. 1951 : The Use of Life Form and Growth Form in the Analysis of Community Structure, as illustrated by a Comparison of Two Dune Communities. J. Ecol. 39. 396-406.
- 8) 沼田真, 1952 : Some Special Aspects of the Structural Analysis of Plant Communities, 千葉大文理紀要 1 : 194-202.
- 9) 西田誠, 1952 : 倉田氏の論文をよんで : 千葉県植物誌基礎資料 3 [1] 7-10.
- 10) 沼田真, 1953 : 斜面の植物群落, 北陸の植物, Vol I, No. 1, 1-4.
- 11) 沼田真 1955 : 竹林の群落構造と遷移 : 千葉大文理紀要, 第1巻, 第4号, 227.

Papers in Meteorology and geophysics の実費に頒布について

気象研究所で出している Papers in Meteorology and geophysics を実費1冊300円で日本気象学会が頒布できるようになった。御希望の方は学会事務所に申込んで下さい。

東京都千代田区大手町気象庁内

日 本 気 象 学 会

振替口座 東京 5958